募集要項

給付金額

給付期間は給付取消に抵触しない限り大学卒業までとし、給付金額は次のとおりとする。年間72万円を前期と後期の2回に分けて給付する。（返済義務がない給付型）

◎前期分給付　36万円（5月末頃予定）　　◎後期分給付　36万円（11月末頃予定）

上記応募資格を喪失した場合、また当財団の助成金の廃止要件に該当した場合、助成金の廃止および返還請求を行うことがある。

申請手続

公益財団法人オービック野田財団サイト内、エントリーフォームからプレエントリーを行うこと。プレエントリー完了後、下記の書類を申請期限までに事務局宛に送付すること。なお、申請書類は返却しない。

1. **助成金給付願書（個人）（指定書式）**
2. **在学学校長等の推薦書（指定書式）**
3. **指導教授、指導者または協会等からの推薦書（指定書式）**
4. **成績証明書（発行できる最新のもの）**
5. **住民票（家族全員でマイナンバー無し、3ヶ月以内のもの）**
6. **（一次選考合格者のみ）扶養者の所得証明書**

申請期間と給付決定予定

◎申請期間　2022年11月1日～2023年1月31日（当日消印有効）
◎給付決定　2023年3月末日予定
なお、給付決定後、入学または進学ができなかった場合については、給付を取り消す。

選考と結果通知

1. **一次および二次選考は選考委員会で行い、最終選考は3月下旬の理事会にて決定する**
2. **一次選考は書類審査を行い、合否については通過者のみ連絡する**
3. **二次選考は面接を行う**
4. **最終選考は二次選考結果をもとに理事会で行い、結果については全員に連絡する**
5. **給付決定した場合は、４月時点の在籍証明書および財団指定の振込依頼書を事務局宛に送付すること**
6. **給付後、毎月（5日締切にて）活動報告書兼使途報告書を提出すること**

選考基準

1. **心身ともに健康である者**
2. **学業に意欲があり、確実に修了できる見込みがあると認められる者**
3. **特定のスポーツにおいて、特にすぐれた資質、能力があると認められる者**
4. **経済的な支援を必要とする者**
5. **定期的に連絡が行える者（月次報告提出および電話・メールにて連絡が取れること）**

その他

1. **給付が決定した場合、当財団関連の印刷物・ホームページで氏名等を公表する場合がある**
2. **在学校からの問い合わせには、選考内容以外について回答を行う。また当財団から在学校へ問い合わせを行うことがある**
3. **申請書類上の個人情報については、当助成金対象者の選考以外に使われることはない**
4. **助成対象者が学業を修了した後の進路に制約は設けない**
5. **財団主体の助成対象者交流会を年1回程度開催する**

願書記入・作成上の注意

1. **助成金給付願書（個人）は必ず本人が直筆にて記入すること（保護者または身元保証人欄を除く）**
   ※諸事情により日本語での記入に問題がある場合には、事務局へ相談のこと
2. **願書および推薦書の両面印刷は不可**
3. **給付時の金融機関口座は、必ず本人の口座を指定のこと（本人名義以外の口座への入金は行わない）**

お問い合わせ・願書送付先

公益財団法人
オービック野田財団　事務局
〒104-8328
東京都中央区京橋2-4-15　オービックビル内

TEL：03-3548-0012
FAX：03-3548-0013
（※電話受付時間：平日10：30~17：00／土日祝日休み）
E-mail：zaidan@obic.co.jp　**Web：http://obicnoda-zaidan.jp/**

スマートフォンからのアクセスはこちら

2023年度

助成志望者募集要項

個人対象

公益財団法人
オービック野田財団
OBICnoda Foundation

Player's Voice

助成金のおかげで負傷から早期回復ができ学生最後のシーズンに出場することができました

大学時代にフットボールに４年間つぎ込むことを考えた時、本来ならば自分でアルバイトをして足りない費用を捻出している人も多いと思います。しかし、オービック野田財団の助成金を支給してもらえれば両親に負担をかけずに、アルバイトをする時間も勉強とフットボールにつぎ込むことができると考えました。

フットボールがコンタクトスポーツである以上、防具や身体のメンテナンスにはそれなりに費用がかかります。そこに気兼ねなく最善の選択ができることは本当に助かりました。

私が大学４年の時は、新型コロナウイルス感染症の影響で春は全く試合ができず、秋のシーズンも１ヶ月遅れで短縮して行われました。秋の開幕直前にやっと練習試合を組むことができたのですが、そこで重度の足首の捻挫をしてしまいました。少しでも早く回復するために、酸素カプセルに入る治療を受けたのですが、保険適用外のため、１回１万円ほどかかる高額な治療でした。しかし、助成金をいただいていたおかげで、費用を気にせずに回復することだけに集中して治療を受けることができ、シーズン途中から戦列に復帰することができました。もし、助成金の支給がなかったら、４年生の秋のシーズンを棒に振ってしまっていたかもしれません。学生最後のシーズンでプレーできたことにとても感謝しています。

大学卒業後にプレーを続けようと思ったのは、学生の時に成し遂げられなかったライスボウル制覇を達成したいと思ったからです。Ｘリーグは国内のレベルの高い選手のリーグなので、自分がどこまでＸリーグで通用するか試してみたいという思いもありました。また、中学時代からのチームメイトとは対戦相手として戦ったとこがないので、彼と違う強豪チームに所属して戦ってみたかったというのも動機の一つです。

今は出場機会を得ているキックオフリターンで結果を残すこと、そして本職のＬＢとして出場機会を得ることが目標です。自分の実力を高めて、もっとフットボール選手としてうまくなりたいと思っています。

繁治 亮依 2019~2020年度受給

関西学院大学2020年度卒。関西学院中学部からフットボールを始める。高校時代は１、２年時にクリスマスボウル優勝を経験。関西学院大学では1年時から先発LBとしてプレーし、2~4年時に甲子園ボウル3連覇に貢献。大学卒業後もXリーグのクラブチームでプレーを続けている。

Player's Voice

自宅にトレーニングとトリートメント機器を揃えコロナ禍でも身体のケアをすることができました

私は将来、日本のフットボールの普及、発展に貢献し、もっと盛り上げていく活動をしていきたいという夢があります。日本のフットボールは競技のレベルは年々上がっていると思いますが、競技人口は減少傾向にあると聞いています。さらに盛り上げるために、まずはもっと多くの人にフットボールの存在を知ってもらうことが大事だと思っています。そうすれば、競技人口も増え、競争が生まれ、レベルも上がると考えています。何も実績のない選手では発信力も限られていますので、まずは自分がトップ選手になることが今の目標です。オービック野田財団の方々との面接の時にそういうお話をしました。

助成金は主にフットボール用品の購入と身体のケアに使用しています。高校の時はスパイク・シューズのクリーツが１、２本折れていても練習で使用していたのですが、滑って転んでしまうこともありました。今は常に試合と同じくいい状態のものを使用できているので、負傷のリスクを減らすことができています。身体のケアに関しても、コロナ禍で自宅でのトレーニングやトリートメントをしなければならない状況の時にも、助成金を活用してダンベルやバランスボール、ストレッチポールやマッサージガンなどを購入して、環境を整えることができました。高校時代は筋肉系の負傷がありましたが、大学に入ってからはケアが十分できているので一度もありません。

昨年、一昨年は、膝の負傷であまりチームに貢献できませんでした。しかし、その間も毎日リハビリに行くことができ、サプリメントもいいものを購入し、回復のために最善を尽くすことができました。

今季は一戦必勝で、一つひとつ丁寧にプレーしていくことが目標です。シーズン中にどれだけ成長できるかが勝負だと思っています。一つひとつ丁寧にプレーしていくことを積み重ねていけば、結果はあとからついてくると思っています。

庭山 大空 2020~2022年度受給

立命館大学3年。小学3年時からフットボールを始め、立命館宇治高時代は１年時からQBとして先発を務め、全国大会関西地区決勝進出に貢献。２年時にはクリスマスボウル準優勝、３年時には立命館宇治高初のクリスマスボウル優勝に導いた。

Player's Voice

フットボールだけでなく勉学も頑張る自分の殻を破るモチベーションになっています

オービック野田財団の助成金に応募しようと思ったのは、少しでも早く自立をしたいと考えたからです。今でも両親や周囲の方々に色々とお世話になっていますが、中学、高校と私立に行かせてもらったので、大学では少しでも両親の負担を減らしたいと考えました。助成金は学費や寮費、生活費、フットボール用品などに使用しています。

今はチームの寮で生活しています。実家を出て、あらためて両親の存在のありがたさを感じています。特に母には計り知れない感謝があります。家にいた時には父と話をしながら待っている間に、母が食事を用意してくれることが当たり前だと気にも留めていませんでした。それが、どれだけの幸せなことなのかを身にしみて感じています。

助成金を支給していただいていることは、フットボール選手として自分に期待をしてくださっている方々がいるということだと思っています。その期待に応えられるように頑張らなければという気持ちは常に持っています。私はまだ１年生ですが、学年に関係なく、チームはもちろん、フットボール界全体を盛り上げるために最善を尽くさなければと思っています。日々の練習でも『このぐらいでいいや』という気持ちは全くありません。

勉強は正直に言えば苦手です。しかし、留年をしてしまうと助成金の支給対象ではなくなってしまうので、フットボール選手としてよりよくあるためには勉強も頑張らなければという責任を感じています。助成金は金銭面だけでなく自分の殻を破るモチベーションも与えてくれていると思います。

私の目標は日本代表だった父を越える選手になることです。同じポジションということもあり、よく父と比べられることがあります。私自身はそれをチャンスだと思っています。まだ選手としては未熟な自分でもそれなりに注目していただいているのは父のおかげですし、ありがたいことです。周囲の評価はあまり気にしていませんが、しっかりと自立し、期待に応えられる選手になりたいと思っています。

佐々木 敬尊 2022年度受給

中央大学1年。佼成学園中学2年時に映画『幸せの隠れ場所』を観てサッカーからフットボールに転向。佼成学園高では２年時から先発として活躍しクリスマスボウル制覇に貢献。３年時は主将としてチームを６年連続クリスマスボウル出場に導いた。

財団概要

◎設立……2017年1月11日
◎公益法人認定……2018年3月8日
◎主務官庁……内閣府
◎代表者……理事長　野田順弘
◎目的および事業
スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において、経済的支援を行うことにより、わが国の発展に資することを目的とします。この目的を達成するために次の事業を行います。

1. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において活動する学生及び団体に対する経済的支援
2. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野における研究事業に対する経済的支援
3. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

募集要項

給付対象
日本国内の大学に在学し、スポーツを積極的に行う学生で、スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与し、他の範となることができる者。

対象スポーツ種目
アメリカンフットボール

応募資格
給付期間（2023年4月1日~2024年3月31日）において、以下の該当項目を満たしていること。

1. 上記給付期間において大学生であること
2. 専攻するスポーツ種目において、自他ともに認める力量を有していること
3. チームスポーツにおいては、大学または社会人等のチーム（部）に所属している競技者であること
4. 申請時に満25歳未満であること
5. 留年をしていないこと